



きんぎょしがすずり
綴プロジェクト作品 琴棋書画図襖

海北友松筆 寄贈先：大本山 建仁寺 原本所蔵：大本山 建仁寺

淡い色彩で描かれた文人の嗜み。

海北友松が制作した「建仁寺方丈障壁画」五十面のうち、上間「之間」衣鉢の間を飾る十面の襖絵。「琴棋書画図襖」は、教養ある文人の嗜みとして、中国で古くから重んじられてきた「四芸」を題材にしている。その「四芸」、琴、囲碁、書、絵画に親しむ人物を襖の中心に置き、両端には大きな空間を取りつつ、淡い彩りを添えて仕上げていく。狩野派の絵とも伝統的な水墨画とも異なる友松独自の画風で描き上げた作品である。

一九三四年、建仁寺方丈は、台風によって倒壊してしまいましたが、「琴棋書画図襖」は、奇跡的に難を逃れました。その後、原本は、建仁寺に戻ることではなく、京都市立博物館に保管されています。二〇〇九年、綴プロジェクトは、「琴棋書画図襖」の高精細複製品を制作し、建仁寺に寄贈、元あった場所で一般公開を可能にしました。この部屋を訪れる人は、襖の中で文人たちが「四芸」を嗜む様子を楽しむことができるでしょう。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。

海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品35作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術により身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト
でご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

公開情報

綴プロジェクト作品・琴棋書画図襖は建仁寺にて公開されています。

Canon